

(様式第 9)

宮大医医第117号
平成22年10月4日

九州厚生局長 殿

宮崎大学医学部附属病院長
池ノ上 克

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	47人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	196人	174人	319.8人	看護補助者	10人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	6人	4人	10.0人	理学療法士	6人	臨床検査技師	31人
薬剤師	27人	2人	29.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	1人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	10人	その他	0人
助産師	16人	2人	18.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	447人	99人	528.9人	臨床工学技士	6人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	37人
歯科衛生士	1人	3人	3.5人	歯科技工士	1人	事務職員	47人
管理栄養士	5人	1人	6.0人	診療放射線技師	25人	その他の職員	8人

(注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	536.3人	12.3人	548.6人
1日当たり平均外来患者数	745.3人	41.2人	786.5人
1日当たり平均調剤数	632剤		

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数 (毎日の 24 時現在の在院患者数の合計) を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	末梢血単核球移植による血管再生治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(第1内科) 閉塞性動脈硬化症による下肢虚血患者で血行再建術の適応とならない患者に対し、末梢血単核球をアフエレーシスにて収集し、下肢(下腿～足)に注入する。本治療により疼痛、潰瘍などの症状軽減をはかることができる。			
医療技術名	アドレノメデュリンによる閉塞性動脈硬化症の治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(第1内科) 閉塞性動脈硬化症による下肢虚血患者で血行再建術の適応とならない患者に対し、アドレノメデュリン接続点滴(8時間/日を2週間連続で投与)を行い、下肢の虚血症状の改善をはかる治療。			
医療技術名	アドレノメデュリンによる炎症性腸疾患の治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(第1内科) ステロイド抵抗性又はステロイド依存性で治療に難渋する炎症性腸疾患患者にアドレノメデュリン接続点滴(8時間/日を2週間連続で投与)を行い、病状の改善をはかる治療、アドレノメデュリンは血行改善、粘膜再生を促す力がつよく、1例目の症例では大きな改善が得られた。			
医療技術名	慢性閉塞性肺疾患の運動耐容能改善効果の評価	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要(第3内科) 慢性呼吸不全を来した患者を対象にペプチドホルモングレリンを3週間にわたって点滴静注し(1日2回投与)、運動耐容能の改善、食欲、体重増加を評価する。			
医療技術名	慢性下気道感染症に対するグレリン投与の臨床効果	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(第3内科) 慢性下気道感染症のため体重減少を来し、喀痰の多い患者を対象にペプチドホルモングレリンを2週間にわたって点滴静注し、(1日2回投与)プラセボ投与群と比較して、喀痰量の減少、体重の増加を評価する。			
医療技術名	難治性気分障害に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(精神科) 精神療法・薬物療法等の治療に抵抗性のうつ病をはじめとする気分障害に対し、患者の同意を得たうえで経頭蓋磁気刺激療法を行っている。			
医療技術名	膵石症に対する体外衝撃波結石破砕療法(ESWL)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(第1外科、光学医療診療部) 膵石に対する体外衝撃波結石破砕療法は、体外衝撃波結石破砕装置を用いて体外からの衝撃波で膵管内膵石を破砕し、粉碎化の後に消失させる非観血的な治療法である。衝撃波は、硬いが脆い膵石を効率よく結晶細片に粉碎することが可能である。本治療法は、低侵襲で安全性が高く、結石破砕効果および症状緩和効果が高く、膵石症に対する有効な治療法の一つである。			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要(眼科) 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	妊娠22～23週の超未熟児に対する集学的集中治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 妊娠22～23週で出生した未熟児は生存限界であり、呼吸循環管理に加え、消化管、皮膚、感染症対策など集学的な管理と緻密なケアとを必要とし、妊娠24週以降とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	ケミカルピーリング	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(皮膚科) 尋常性痤瘡等の疾患に対し行う。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	円形脱毛症へのDPCP療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(皮膚科) 難治性の円形脱毛症に対し、DPCPを用いた免疫賦活療法を行っている。			
医療技術名	皮膚悪性リンパ腫へのACNU外用療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(皮膚科) 皮膚悪性リンパ腫の皮膚病変に対し、抗癌剤であるACNUの外用療法を行っている。			
医療技術名	酒查皮に対する色素レーザー療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(皮膚科) 酒查皮に対し、レーザー療法を行う。			
医療技術名	残存聴力活用型人工内耳	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(耳鼻咽喉科) 補聴器と人工内耳を併用する新しいコンセプトの人工内耳治療。			
医療技術名	中耳真珠腫に対する前鼓室開放術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(耳鼻咽喉科) 中耳真珠腫の術後再発予防策としての追加術式。			
医療技術名	埋め込み型骨導補聴器(BAHA)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要(耳鼻咽喉科) 混合難聴者及び片側聾患者に対し、BAHAによる聴力補償を行った。			
医療技術名	肺腫瘍に対するラジオ波焼灼術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要(放射線科) 高齢、低肺機能などの理由により手術療法が困難な肺の悪性腫瘍患者を対象として、ラジオ波を発生する電極針にて腫瘍組織を加温し、熱凝固により抗腫瘍効果を示す低侵襲な局所療法。			
医療技術名	口腔癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要(歯科口腔外科・矯正歯科) 口腔癌症例において、頸部リンパ節への転移の有無を、センチネルリンパ節理念により術中に同リンパ節を固定し摘出し、迅速に病理組織学的に転移しているか否かを診断し、その結果により頸部郭清術を施行するか否かを決定する。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(総合周産期母子医療センター) 生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(総合周産期母子医療センター) 胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(総合周産期母子医療センター) 新生児の腎不全に対して行う透析療法。			
医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(遺伝カウンセリング部) 遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	72人	・膿疱性乾癬	16人
・多発性硬化症	30人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・重症筋無力症	66人	・原発性胆汁性肝硬変	34人
・全身性エリテマトーデス	226人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	68人
・再生不良性貧血	14人	・混合性結合組織病	38人
・サルコイドーシス	68人	・原発性免疫不全症候群	7人
・筋萎縮性側索硬化症	28人	・特発性間質性肺炎	37人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	128人	・網膜色素変性症	36人
・特発性血小板減少性紫斑病	28人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	26人	・肺動脈性肺高血圧症	6人
・潰瘍性大腸炎	212人	・神経線維腫症	26人
・大動脈炎症候群	22人	・亜急性硬化性全脳炎	2人
・ピュルガー病	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	21人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	28人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	176人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	4人	・脊髄性筋委縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	104人	・球脊髄性筋委縮症	2人
・アミロイドーシス	13人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4人
・後縦靭帯骨化症	87人	・肥大型心筋症	13人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	44人	・ミトコンドリア病	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	34人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	23人	・黄色靭帯骨化症	2人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	125人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・眼底三次元画像解析	・
・膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るものに限る。)	・
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定及び転移の検索(触診及び画像診断の結果、悪性黒色腫の遠隔転移が認められないものであって、臨床的に所属リンパ節の腫大が確認されていないものに限る。)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	子宮内胎児死亡を除くすべての剖検症例においてCPCを開催
部 検 の 状 況	部検症例数 48例 (胎児/DOAを除く症例数37例) /部検率 22.4%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者名	所属部門	金額	補助元又は委託元
KRAS変異型の切除不能進行・再発大腸癌に対する3次治療としてのTS-1 + bevacizumab併用療法第Ⅱ相試験	押川 勝太郎	第一内科	一症例あたり 157,500円	補 委 財団法人先端医療新興財団
循環器系シグナルーム解析による疾患・病態解明のための基礎研究	北村 和雄	第一内科	2,000,000	補 委 国立循環器病センター
アドレノメデュリンを利用した炎症性腸疾患治療薬開発のための基盤研究	芦塚 伸也	第一内科	1,820,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
腹部大動脈瘤の形成におけるマスト細胞の関与	鶴田 敏博	第一内科	1,560,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
アテローム血栓症の発症におけるアネキシンA5の関与	佐藤 勇一郎	第一内科	1,560,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
ヒト褐色細胞組織に存在する新規生理活性ペプチドの系統的探索	北村 和雄	第一内科	1,200,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
アドレノメデュリン(AM)の炎症性腸疾患治療薬としての臨床応用	北村 和雄	第一内科	44,855,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
真性多血症、本態性血小板増多症発症メカニズムの解明	下田 和哉	第二内科	1,560,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
慢性骨髄増殖性疾患の分子機構および白血病急性転化機序の解明	幣 光太郎	第二内科	1,000,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
注射に代わる経鼻投与デバイスを用いた糖尿病と肥満に対するペプチド医薬品の開発	中里 雅光	第三内科	20,000,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
難治性ニューロバチーの病態に基づく新規治療法の開発	中里 雅光	第三内科	550,000	補 委 国立精神・神経センター
インスリン分泌を制御する新たなエネルギー代謝調節ペプチド探索における日韓共同研究	中里 雅光	第三内科	2,000,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
幹細胞識別技術による生体内肺癌発症監視機構とAkt/HIF1標的新規治療の研究	中里 雅光	第三内科	6,800,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
肺上皮特異的Pten欠損マウスを用いた肺線維症病態解析と新規分子標的治療の検討	柳 重久	第三内科	1,820,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
慢性閉塞性肺疾患患者における診療過程の質とアウトカムとの関連についての研究	有村 保次	第三内科	1,820,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
糖尿病性神経障害におけるグレリンの病態生理学的意義の検討と臨床応用	椎屋 智美	第三内科	3,120,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)

小計16

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者名	所属部門	金額	補助元又は委託元
摂食調節に機能する新規ペプチドの同定と機能解析	中里 雅光	第三内科	4,810,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
グレリンのエネルギー同化作用による骨格筋代謝機能改善の可能性に関する研究	十枝内 厚次	第三内科	910,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
新規視床下部ペプチドの発見と機能解析	山口 秀樹	第三内科	1,300,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
慢性呼吸器疾患におけるグレリンの病態意義の解明と臨床応用を目指した橋渡し研究	中里 雅光	第三内科	1,600,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
アミロイドーシスに関する調査研究	中里 雅光	第三内科	1,300,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
高齢者医療とQOL改善に対するグレリンの臨床応用と基盤的研究	中里 雅光	第三内科	1,800,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
慢性呼吸不全に対するグレリンの臨床応用研究	中里 雅光	第三内科	34,486,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
HTLV-1感染関連分子とATL発症危険群の同定	野村 創	膠原病・感染症内科	2,080,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
ALT発症高危険群の長期追跡と発病予防の検討	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,000,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
脳内神経変性疾患に対する再生医療・遺伝子治療効果判定に有用な放射性診断薬の開発	石田 康	精神科	650,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
てんかんの海馬興奮系増強効果を支えるレドックス制御分子群の網羅的発現・機能解析	植田 勇人	精神科	1,560,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
βアミロイドオリゴマー抗体による神経細胞保護機構の検討	林 要人	精神科	2,210,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
シスチン・グルタミン酸交互輸送体機能障害による海馬酸化ストレス増強機序の解明	土井 拓	精神科	1,560,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
神経移植とL-DOPA療法がもたらす神経可塑性に関する行動神経薬理学的研究	石田 康	精神科	1,430,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
インターロイキン17Eの糸球体上皮細胞シグナル伝達障害による蛋白尿発症機序の解明	此元 隆雄	小児科	1,690,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
急性脳炎・脳症の病態解明及びそれに基づく治療法・予防方法の確立に関する研究	布井 博幸	小児科	1,300,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)

小計16

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ラットβCGRPを用いた脳内カルシトニン受容体の生理作用に関する検討	澤田 浩武	小児科	780,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
インフルエンザ(H5N1)の死因となる劇症型ARDSの病態解析と治療法に関する研究	布井 博幸	小児科	2,000,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
原発性免疫不全症候群に関する調査研究	布井 博幸	小児科	1,500,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
フィロチン由来反接着性 α 7 β 4 FNIII14と抗癌剤を併用した急性骨髄性白血病の根絶治療法	松永 卓也	第一外科	300,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
都農町における生活習慣病の研究	千々岩 一男	第一外科	3,000,000	補 委 都農町
清武町地区における生活習慣病の研究	千々岩 一男	第一外科	3,675,000	補 委 清武町
完全静脈栄養下における腸管免疫異常に対するグレリンの効果	佛坂 正幸	第一外科	2,600,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
肝予備能把握法の確立と肝切除後残存肝機能の分子生物学的解析	千々岩 一男	第一外科	1,560,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
切除可能膵胆道領域がんに対する補助療法の研究	千々岩 一男	第一外科	500,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
治癒切除結腸癌(StageⅢ)を対象としたフッ化ピリミジン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究	河野 文彰	第二外科	73,500	補 委 財団法人先端医療新興財団
白蓋形成不全症におけるゲノムコピー数異常の解析とその臨床診断への応用	関本 朝久	整形外科	500,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
網膜変性疾患の分子生物学的並びに電気生理学的研究	直井 信久	眼科	1,040,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
インスリンは嗅覚において神経保護因子として働くのか:嗅覚障害の病態解明に向けて	佐藤 伸矢	耳鼻咽喉科	1,170,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
正常機能を有する外耳道皮膚の再生:温度応答性培養皿を用いた人工外耳道皮膚の作製	土屋 克之	耳鼻咽喉科	1,690,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
ポジトロン断層法(PET-CT)を用いた高度難聴児への電気聴覚検査法の開発	東野 哲也	耳鼻咽喉科	910,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
優性遺伝形式をとる遺伝性難聴に関する調査研究	東野 哲也	耳鼻咽喉科	1,000,000	補 委 厚生労働科学特別研究事業(厚生労働省)

小計16

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者名	所属部門	金額	補助元又は委託元
胎児脳機能リズム形成に及ぼす母体環境ストレスの影響について	池ノ上 克	産婦人科	1,820,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
妊産婦死亡及び乳幼児死亡の原因究明と予防策に関する研究	池ノ上 克	産婦人科	1,000,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
周産期母子医療センターの診療体制及び診療実績による評価項目と評価法に関する研究	池ノ上 克	産婦人科	3,200,000	補 委 厚生労働科学特別研究事業(厚生労働省)
深部静脈血栓症予防に対する局所遺伝子導入の検討	古小路 英二	放射線科	1,690,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
経皮的血管形成術後の血栓閉塞に対する局所遺伝子導入の検討	田村 正三	放射線科	1,430,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
アポトーシスとネクロシスの鑑別による所麻酔薬の細胞致死機序の解明	細川 信子	麻酔科	4,290,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
麻酔薬によるGLUT4トランスロケーション変化の解析	山下 幸貴	麻酔科	2,210,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
腫瘍分泌生理活性物質によるシナプス伝達機構の修飾	高崎 真弓	麻酔科	1,170,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
リドカインの腫瘍細胞増殖抑制および致死機序の解明	鬼塚 信	麻酔科	3,380,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
麻酔薬のオレキシン細胞活動に及ぼす影響ーオレキシン系は麻酔薬の標的かー	白阪 哲朗	麻酔科	3,640,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
麻酔ならびにショック時の血管反応性に関する研究	恒吉 勇男	麻酔科	2,210,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
幹細胞分化誘導システムを利用した乏突起腫瘍の新規分子マーカーの探索	竹島 秀雄	脳神経外科	5,590,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
ソノポレーション法を用いた顎骨延長法の確立	吉岡 泉	歯科口腔外科	88,504	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
麻酔薬の内因性睡眠経路に及ぼす影響	與那覇 哲	手術部	2,080,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
腫瘍分泌性生理活性物質のシナプス伝導への影響	柏田 政利	手術部	4,290,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
Siva-1を介するリンパ球のアポトーシス誘導機構の解明	下田 晴子	輸血部	1,950,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)

小計16

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アテローム血栓症の発症におけるペントラキシン3の関与	盛口 清香	病理部	1,300,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
アテローム血栓症の病態解明に関する病理学的研究	浅田 祐士郎	病理部	4,420,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
若年喫煙習慣者の禁煙治療前後における脳血流・代謝変化についての研究	長町 茂樹	放射線部	1,336,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
若年喫煙習慣者の禁煙治療前後における脳血流・代謝変化についての研究	長町 茂樹	放射線部	780,000	補 委 科学研究費補助金(文部科学省)
安全で高精度な放射線治療を実現する放射線治療体制に関する研究	川村 慎二	放射線部	1,000,000	補 委 がん研究助成金(厚生労働省)
慢性血管炎に関する調査研究	藤元 昭一	血液浄化療法部	1,300,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
人工ガンマグロブリンの製剤化への安全性と臨床試験にむけた評価系の確立	藤元 昭一	血液浄化療法部	300,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)

合計71

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
Microbiology and Immunology	2009年10月	Adrenomedullin treatment reduces intestinal inflammation and maintains epithelial barrier function in mice administered dextran sulphate sodium.	Ashizuka S	第一内科
Biochemical and Biophysical Research Communications	2009年6月	Flow cytometric analysis of the calcitonin receptor-like receptor domains responsible for cell-surface translocation of receptor activity-modifying proteins. "jointly worked"	Kuwasako K	第一内科
Hypertension Research	2009年5月	Pressure-independent effects of pharmacological stimulation of soluble guanylate cyclase on fibrosis in pressure-overloaded rat heart.	Masuyama H	第一内科
Regulatory Peptides	2009年8月	Increased plasma levels of the mature and intermediate forms of adrenomedullin in obesity.	Nomura I	第一内科
Vasc Health Risk Mana	2009年8月	Association between body mass index and chronic kidney disease: a population-based, cross-sectional study of a Japanese community.	Nomura I	第一内科
Am J Physiol Heart Circ Physiol	2009年8月	Pharmacological stimulation of soluble guanylate cyclase modulates hypoxia-inducible factor-1 α in rat heart.	Tsuruda T	第一内科
Journal of the American Society of Nephrology	2009年4月	Urine podocyte mRNAs mark progression of renal disease.	Sato Y	第一内科
Biochem Biophys Res Commun	2009年6月	p27 deregulation by Skp2 overexpression induced by the JAK2V617 mutation.	Shimoda K	第二内科
Biology of Blood and Marrow Transplantation	2009年6月	Incidence and risk of postherpetic neuralgia after varicella zoster virus infection in hematopoietic cell transplantation recipients: Hokkaido Hematology Study Group.	Matsunaga T	第二内科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
Journal of Biological Chemistry	2009年7月	VLA-5-mediated adhesion to fibronectin accelerates hemin-stimulated erythroid differentiation of K562 cells through induction of VLA-4 expression.	Matsunaga T	第二内科
Hepatology	2009年8月	Increased rate of death related to presence of viremia among hepatitis C virus antibody-positive subjects in a community-based cohort study.	Hayashi K	医学教育改革推進センター(第二内科)
日本消化器内視鏡学会雑誌	2009年8月	食道静脈瘤上に発生し、内視鏡的に治療しえた食道上皮内癌の1例	原田拓	第二内科
Cancer Science	2009年10月	Prognostic impact of immunohistochemical biomarkers in diffuse large B-cell lymphoma in the rituximab era.	Shimoda K	第二内科
European Journal of Haematology	2009年10月	The impact of cytogenetic abnormalities on the prognosis of primary myelofibrosis: a prospective survey of 202 cases in Japan.	Hidaka T	第二内科
Journal of Clinical and Experimental Hematopathology	2009年11月	Cladribine treatment in two-hour intravenous infusion for previously-treated low grade B-cell lymphoma: A pilot study.	Katayose K	第二内科
Journal of Biological Chemistry	2010年3月	Apoptotic death of hematopoietic tumor cells through potentiated and sustained adhesion to fibronectin via VLA-4.	Matsunaga T	第二内科
International Journal Hematology	2010年3月	Rituximab in combination with CHOP chemotherapy for the treatment of diffuse large B cell lymphoma in Japan: a retrospective analysis of 1,057 cases from Kyushu Lymphoma Study Group.	Shimoda K	第二内科
Modern Rheumatology	2009年4月	Leukocytapheresis (LCAP) decreases the level of platelet-derived microparticles (MPs) and increases the level of granulocytes-derived MPs: a possible connection with the effect of LCAP on rheumatoid arthritis.	Okayama A	膠原病・感染症内科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
Intervirology	2009年5月	Proviral, Loads and Clonal Expansion of HTLV-i Infected Cells Following Vertical Transmission: A 10-year Follow-up of Children in Jamaica.	Okayama A	膠原病・感染症内科
Intervirology	2010年3月	Multiple Integrations of Human T-Lymphotropic Virus Type 1 Proviruses in the Engrafted Cells from the Asymptomatic Carriers in NOD/SCID/ γc^{null} Mice.	Okayama A	膠原病・感染症内科
European Archives of Oto-rhino-laryngology	2009年8月	Nystagmus using video-oculography in psychiatric patients.	Ishida Y	精神科
Japanese Journal of Quality and Safety in Healthcare	2009年9月	Development of a job attitude scale for patient safety officers.	Ishida Y	精神科
Journal of Neuroendocrinology	2009年11月	Central endogenous vasopressin induced by central salt-loading participates in body fluid homeostasis through modulatory effects on neurons of the PVN in conscious rats.	Ishida Y	精神科
精神医学	2010年1月	腎不全を合併し透析導入したてんかんを伴う自閉症の一例-血液透析における抗てんかん薬血中濃度の変化	石田 康	精神科
Neurochemical Research	2009年7月	Role of glutamate and GABA transporters in development of pentylentetrazol-kindling.	Ueda Y	精神科
Journal of Neurochemistry	2009年7月	Increased lipid peroxidation in Down's syndrome mouse models.	Ueda Y	精神科
Journal of Molecular Neuroscience	2010年2月	Gene Network Analysis to Determine the Effects of Antioxidant Treatment in a Rat Model of Neonatal Hypoxic-Ischemic Encephalopathy.	Ueda Y	精神科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
Brain Research	2009年4月	Levetiracetam enhances endogenous antioxidant in the hippocampus of rats: in vivo evaluation by brain microdialysis combined with ESR spectroscopy.	Ueda Y	精神科
精神医学	2009年5月	セルトラリン投与により遅発性ジスキネジアが出現した老年期うつ病の1例.	植田 勇人	精神科
臨床精神薬理	2009年11月	Risperidone錠からrisperidone口腔内崩壊錠への切り替え後の患者を対象に行ったアンケート調査	長友 慶子	精神科
脳21	2009年10月	アルツハイマー型認知症患者の行動および心理症状に対する抑肝散の効果-日常診療下における検討-	林 要人	精神科
Neuroscience Research	2010年3月	Involvement of vasopressin V1b receptor in anti-anxiety action of SSRI and SNRI in mice	Ishiduka Y	精神科
Neuroscience Research	2009年4月	Analgesic effect of milnacipran is associated with c-Fos expression in the anterior cingulate cortex in the rat neuropathic pain model.	Takeda R	精神科
Pediatr Int.	2009年12月	Successful bone marrow transplantation in chronic granulomatous disease.	Nunoi H	小児科
Pediatr Blood Cancer	2010年2月	Successful treatment of refractory donor lymphocyte infusion-induced immune-mediated pancytopenia with rituximab.	Nunoi H	小児科
J Infect Dis.	2009年8月	Risk parameters of fulminant acute respiratory distress syndrome and avian influenza (H5N1) infection in Vietnamese children.	Nunoi H	小児科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
Pediatric Blood & Cancer	2009年12月	Cytomagalovirus infection mimicking juvenile myelomonocytic leukemia showing hypersensitivity to granulocyte-macrophage colony stimulating factor.	Moritake H	小児科
胆道	2009年5月	肝外胆管癌における胆管切除断端の予後因子としての意義.	大谷和広	第一外科
日本腹部救急医学会雑誌	2009年5月	Press Through Package誤飲によるS状結腸穿孔の1例.	永野元章	第一外科
日本臨床外科学会雑誌	2009年5月	回盲部Granular cell tumorの1例.	千々岩一男	第一外科
Journal of Gastrointestinal Surgery	2009年6月	Surgical strategy for hepatocellular carcinoma patients with portal vein tumor thrombus based on prognostic factors.	Kondo K	第一外科
Surgery Today	2009年6月	An unusual variant of a left paraduodenal hernia diagnosed and treated by laparoscopic surgery: report of a case.	Uchiyama S	第一外科
癌と化学療法	2009年8月	胃切除を施行したStage IV胃癌の予後規定因子とS-1による術後化学療法の有用性.	前原直樹	第一外科
Clinical Journal of Gastroenterology	2009年10月	Enlarged solitary necrotic nodule of the liver misinterpreted as a metastatic liver cancer.	Otani K	第一外科
日本臨床外科学会雑誌	2009年10月	鼠径ヘルニアによる続発性大網捻転症の1例.	千々岩一男	第一外科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
癌と化学療法	2009年10月	術後補助療法としてS-1投与中に生じた再発胃癌に対しS-1併用療法を継続した1例.	柴田伸弘	第一外科
Diseases of the Colon & Rectum	2009年11月	Side-to-side-to-end strictureplasty for Crohn's diseases.	佛坂正幸	第一外科
臨床外科	2009年11月	集学的治療によって4年8か月生存中の食道癌原発内分泌細胞癌小細胞型肝転移の1例.	中島真也	第一外科
日本消化器外科学会雑誌	2009年11月	臍頭十二指腸切除術後の門脈狭窄に伴う消化管出血に対して門脈内ステントが有効であった1例.	千々岩一男	第一外科
胃と腸	2009年12月	虫垂杯細胞カルチノイドの1例.	長池幸樹	第一外科
Steroids	2010年2月	Effects of bile acids on rat hepatic microsomal type 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase	Chijiwa K	第一外科
Clinical Journal of Gastroenterology	2010年2月	Asymptomatic extra-adrenal paraganglioma masquerading as retroperitoneal sarcoma.	Uchiyama S	第一外科
気管支学	2009年5月	気道異物として発見されたシームガード付きステーブルラインの治療経験	綾部 貴典	第二外科
Cardiovasc Surg	2009年6月	Open surgery or stent repair for descending aortic diseases: results and risk factor analysis.	Nakamura K	第二外科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
Gen Thorac Cardiovasc Surg	2009年6月	Serum carcinoembryonic antigen level in non-small cell lung cancer with preoperative normal serum level.	Tomita M	第二外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg	2009年6月	Pulmonary metastasis from renal cell carcinoma 17 Years after nephrectomy: Report of two cases.	Tomita M	第二外科
Anticancer Res	2009年7月	Preoperative leukocytosis, anemia and thrombocytosis are associated with poor survival in non-small cell lung cancer.	Tomita M	第二外科
日本胸部臨床	2009年9月	術後8年目に肺転移で再発した肝細胞癌の1例	鬼塚 敏男	第二外科
日本血管外科学会雑誌	2009年11月	孤立性上腸間膜解離7例の検討	石井 廣人	第二外科
胸部外科	2009年12月	特発性血小板減少性紫斑病を合併した高齢者開心術の1治療例	鬼塚 敏男	第二外科
日本心臓血管外科学会雑誌	2010年1月	大腸癌を合併した Streptococcus bovis 感染性心内膜炎の1例	横田 敦子	第二外科
Medical Practice	2009年7月	新・静脈栄養・経腸栄養ガイド NSTに必須の知識と実践のすべて 第5部 周術期の栄養管理の実際 呼吸器手術 (共著)	鬼塚 敏男	第二外科
日本臨床別冊 消化管症候群 (下)	2009年9月	空腸、回腸、盲腸、直腸：感染症「腸放線菌症」	河野 文彰	第二外科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
西日本脊椎研究会誌	2009年6月	側彎症診療における腹皮反射の意義	黒木浩史	整形外科
日本整形外科学会雑誌	2009年8月	見過ごされやすいスポーツ傷害-外傷と障害-	帖佐悦男	整形外科
臨床バイオメカニクス	2009年9月	白蓋形成不全に対する寛骨臼骨切り術の応力解析	趙 昕	整形外科
臨床バイオメカニクス	2009年9月	股関節白蓋形成不全の応力解析における白蓋縁形態の影響	鳥取部光司	整形外科
臨床バイオメカニクス	2009年9月	前十字靭帯再建術前後の歩行分析	河原勝博	整形外科
肩関節	2009年7月	腱板断裂後の棘下筋筋委縮に対する筋電図による検討	石田康行	整形外科
ペインクリニック	2009年10月	下肢 股関節の痛み	帖佐悦男	整形外科
日本臨床スポーツ医学会誌	2010年1月	宮崎県少年選手におけるメディカルチェック-障害・外傷と関節弛緩性・筋柔軟性との関連について-	河原勝博	整形外科
脊柱変形	2009年12月	特発性側彎症に対するぶら下がり単純X線撮影の意義	黒木浩史	整形外科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
整形外科と災害外科	2010年3月	当科における脊椎手術術後感染症例の検討	黒木浩史	整形外科
整形外科と災害外科	2010年3月	腰椎外側塊スクリー法の安全性評価	久保紳一郎	整形外科
整形外科と災害外科	2010年3月	膝複合靭帯損傷例における後十字靭帯治療法の検討	深尾 悠	整形外科
Skin Cancer	2009年5月	下腿に原発したNK/T細胞リンパ腫、鼻型の1例	石井千寸	皮膚科
西日本皮膚科	2010年2月	大型の環状ないし孤状の紫斑を呈し、潰瘍性大腸炎の合併をみたLeukocytoclastic Vasculitisの1例	石井千寸	皮膚科
International Journal of Urology	2009年4月	Urethral mobility at catheter removal predicts early recovery of urinary continence after radical prostatectomy.	Kamoto T	泌尿器科
Biochemical and biophysical research communications	2009年9月	Restoration of cyclin D2 has an inhibitory potential on the proliferation of LNCaP cells.	Kamoto T	泌尿器科
泌尿器科紀要	2009年9月	HoLEP 術後1年目までの尿失禁・性機能の推移	Kamoto T	泌尿器科
BJU International	2009年11月	Differences and associations between nocturnal voiding/nocturia and sleep disorders.	Kamoto T	泌尿器科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
Prostate	2010年1月	Regulation of androgen receptor transactivity and mTOR-S6 kinase pathway by Rheb in prostate cancer cell proliferation.	Kamoto T	泌尿器科
Cancer Research	2010年2月	Identification of EP4 as a potential target for the treatment of castration-resistant prostate cancer using a novel xenograft model.	Kamoto T	泌尿器科
神経眼科	2010年3月	側頭動脈炎の病理	前久保知行	眼科
Eur Arch Otorhinolaryngol	2009年11月	Ossiculoplasty with a cartilage-connecting hydroxy apatite prosthesis for tympanosclerotic stapes fixation	Kawano H	耳鼻咽喉科
Early Human Development	2009年4月	Intrapartum fetal heart rate patterns in infants (>34weeks) with poor neurological outcome.	Kodama Y	産婦人科
Pediatrics International	2009年5月	Clinical importance of cytomegalovirus antigenemia for intrauterine cytomegalovirus infection.	Kaneko M	産婦人科
日本産婦人科学会誌	2009年9月	IUGRの予後改善のための周産期管理	鮫島 浩	産婦人科
日本周産期・新生児医学会雑誌	2009年12月	Population-based studyからみた神経予後不良因子の検討	鮫島 浩	産婦人科
日本周産期・新生児医学会雑誌	2009年12月	Long-term tocolysisの妊娠期間の延長効果と経過に関する検討	川越靖之	産婦人科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
日本妊娠高血圧学会雑誌	2009年12月	高血圧のある常位胎盤早期剥離の予後について	古川誠志	産婦人科
オートプシー・イメージング読影ガイド	2009年4月	子宮内胎児死亡	杉村宏	放射線科
Annals of Nuclear Medicine	2009年5月	The reproducibility of deep-inspiration breath-hold 18F-FDG PET/CT technique in diagnosing various cancers affected by respiratory motion.	Nagamachi S	放射線科
Nuclear Medicine Communications	2009年5月	Usefulness of a deep-inspiration breath-hold 18F-FDG PET/CT technique in diagnosing liver, bile duct, and pancreas tumors.	Nagamachi S	放射線科
The Journal of Nuclear Medicine	2009年8月	Competitive displacement of serum protein binding of radiopharmaceuticals with amino acid infusion investigated with N-isopropyl-p-123I-iodoamphetamine.	Kuga N	放射線科
Brain Research	2009年8月	Cardiovascular responses to intravenous injection of a novel isoindolin-1-one derivate in conscious rats.	Shirasaka T	麻酔科
脳神経外科速報	2009年9月	組織構築をもとにした悪性グリオーマの手術	竹島秀雄	脳神経外科
Anticancer Res.	2009年4月	Anti-glioma therapy with temozolomide and status of the DNA-repair gene MGMT.	Takeshima H	脳神経外科
神経眼科	2009年10月	This is temporarry one mask the details of the case mentioned, which is suitable for a clinical pathologic conference.	横上聖貴	脳神経外科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
Oral Science International	2009年5月	Mouth-opening exercises produce a decrease in pain perception in patients with disk displacement with reduction.	Koji Kashima	歯科口腔外科
小児口腔外科	2009年6月	小児における顎顔面骨骨折の臨床的検討—成人症例との比較—.	大川内 雅哉	歯科口腔外科
小児口腔外科	2009年6月	過去10年間に当科を受診した口唇・口蓋裂患者の動向—大学附属病院口腔外科からの報告—.	山内 沙織	歯科口腔外科
小児口腔外科	2009年6月	下顎骨腸骨移植部に歯根未完成歯を自家移植した1例.	吉田 真穂	歯科口腔外科
Hospital Dentistry and Oral-Maxillofacial Surgery	2009年12月	Simultaneous Occurrence of a Keratocystic odontogenic tumor, complex odontoma and dentigerous cyst in the left maxillary sinus.	黒川 英雄	歯科口腔外科
Hospital Dentistry and Oral-Maxillofacial Surgery	2009年12月	上顎臼歯部に発生した粘液腫の1例.	市來 剛	歯科口腔外科
日本口腔外科学会雑誌	2010年1月	口腔顔面指趾症候群Ⅰ型の1症例.	市來 剛	歯科口腔外科
日本口腔科学会雑誌	2010年1月	唇顎口蓋裂を伴った超低出生体重児の哺乳管理.	鹿嶋光司	歯科口腔外科
日本口腔科学会雑誌	2010年1月	唇顎口蓋裂を伴った超低出生体重児の哺乳管理.	井川 加織	歯科口腔外科

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
Thrombosis Research	2009年5月	Incidence of asymptomatic coronary thrombosis and plaque disruption: Comparison of non-cardiac and cardiac deaths among autopsy cases.	Marutsuka K	病理部
Histology and Histopathology	2009年11月	Critical role of von Willebrand factor and platelet interaction in venous thromboembolism.	Marutsuka K	病理部
Cytopathology	2009年10月	EMMPRIN (CD147) expression and differentiation of papillary thyroid carcinoma: implications for immunocytochemistry in FNA cytology.	Marutsuka K	病理部
Thrombosis Research	2010年1月	Inhibition of factor XI reduces thrombus formation in rabbit jugular vein under endothelial denudation and/or blood stasis.	Moriguchi-Goto S	病理部
Thrombosis Research	2009年11月	Factor VII contributes to platelet-fibrin thrombus formation via thrombin generation under low shear conditions	Moriguchi-Goto S	病理部
Atherosclerosis	2009年10月	Thrombin generation by intimal tissue factor contributes to thrombus formation on macrophages-rich neointima but not normal intima of hyperlipidemic rabbits.	Moriguchi-Goto S	病理部
Atherosclerosis	2009年4月	ADAMTS-13 attenuates thrombus formation on type I collagen surface and disrupted plaques under flow conditions.	Moriguchi-Goto S	病理部
Skin Cancer	2009年5月	下腿に原発したNK/T細胞リンパ腫・鼻型の1例	丸塚浩助	病理部
診断病理	2010年1月	健常腎に発生したClear cell papillary renal cell carcinomaの1例	丸塚浩助	病理部

小計9

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行又は発表の年月	題名	発表者名	所属部門
日本病院薬剤師会雑誌	2009年6月	薬学臨床技術導入学の実践を目指したベッドサイド実習の学生による評価と今後の課題	Arimori K	薬剤部
日本病院薬剤師会雑誌	2009年10月	S-1服用患者における血液凝固能検査の必要性	Arimori K	薬剤部
				合計119

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 池ノ上 克
管理担当者氏名	総務課長 鳥居 時政

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各診療科	<ul style="list-style-type: none"> カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。 エックス線写真は1患者1ファイル方式のID番号順で分類。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	なし	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十一の第一項及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療安全管理部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME機器センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 池ノ上 克
閲覧担当者氏名	総務課長 鳥居 時政
閲覧の求めに応じる場所	ミーティングルーム (管理棟 2階)

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	81.1%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		7,890人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		4,907人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,040人
	D: 初診の患者の数		12,154人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：1. 医療に係る安全管理の基本的考え方2. 医療に係る安全管理体制3. 職員研修4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策5. 医療上の事故等発生時の対応6. マニュアルの作成7. 患者等との情報の共有8. 患者からの相談への対応9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。2. 医療事故防止対策マニュアルに関する事。3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。4. 医療事故発生時の原因究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関する事。5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。6. 医療事故発生時の家族や患者への対応に関する事。7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。8. 医療安全管理部の業務に関する事。9. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。10. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。11. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年65回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：1. 新規採用オリエンテーション（研修医・看護師・コメディカル等）（1回）2. 医療事故防止のための基礎技術（新規・中途採用看護師）（1回）3. 新任リスクマネージャー研修（5回）4. 新規採用者・中途採用者研修（15回）5. 医療安全管理に関する講演会（※ビデオによる講習会含む）（13回）6. 各部署との勉強会（30回）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備・ その他の改善のための方策の主な内容：1. リスクマネージャー会での事例報告及び周知2. 作業標準の作成3. 医療事故防止対策マニュアルの作成・見直し4. 院内ラウンド5. 部署毎の医療安全に関する改善目標と改善結果の報告6. 事例検証会、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等 <p style="text-align: right;">（有・無）</p>	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (6) 名 ・ 活動の主な内容： 1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会 (以下「委員会」という) の運営に関するこ と。 2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関するこ と。 3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に 関すること。 4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導 に関するこ と。 5. 患者からの医療に係る相談に関するこ と。 6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関するこ と。 7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関するこ と。 8. 医療安全のための教育・研修に関するこ と。 9. 医療事故防止対策マニュアルに関するこ と。 10. 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関するこ と。 11. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関するこ と。 12. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関するこ と。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確 保状況	有 ・ 無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に対する基本的な考え方2. 委員会等の組織に関する基本的事項3. 職員研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年13回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染の予防に関すること。2. 感染の情報の収集に関すること。3. 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。4. 防疫対策の確立に関すること。5. その他感染対策についての重要事項に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年30回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 新規採用オリエンテーション（研修医・看護師・コメディカル等）（1回）2. 医療事故防止のための基礎技術（新規・中途採用看護師）（1回）3. 新規採用者・中途採用者研修（15回）4. 感染対策に関する講演会（※ビデオ録画による講習会含む）（13回）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染対策担当者会議での報告及び周知2. 院内ラウンド3. 院内感染対策マニュアルの作成、見直し4. ICT会議、感染対策委員会での対策の検討、事例報告等5. サーベイランス6. コンサルテーション	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： 4月 新入局員オリエンテーション開催 医薬品安全管理について 7月 医療安全講演会開催 医療安全に寄与するコミュニケーション 12月 看護技術静脈注射研修 静脈注射の薬理について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： (1) 業務手順書に基づいて業務が実施されているかチェック表を用いて確認した。 (2) 医薬品安全管理上注意すべき情報提供を全職員に対して随時行った。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 業務手順書は、作成後、各部門へ一部ずつ配布した。また、手順書の周知を徹底するために院コンピュータネットワークの「First Class」及び電子カルテの「カムナビ」に掲載し、全職員が閲覧できるようにした。 (2) 業務手順書を現場の実情にあうように改訂した。	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明</p> <p>(2) 人工呼吸器 機器の取扱説明</p> <p>(3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、血漿交換療法、透析技術・トラブルについて</p> <p>(4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して</p> <p>(5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して</p> <p>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</p> <p>(7) 診療用高エネルギー放射線発生装置（粒子線等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(7) 診療用高エネルギー放射線発生装置（粒子線等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。</p>	